

かっ いき活かわら版

北九州市「いきがい活動ステーション」(いきステ)の月刊情報紙

第1号

2016年10月1日

発行責任者

いきがい活動ステーション

所長 江崎時良

「いきがい活動ステーション」が正式オープン

■にぎやかに開所式

「いきがい活動ステーション」(略称:いきステ)は9月6日、事務所がある小倉北区魚町3丁目の中屋ビル地下1階(まなびとESDステーション)で開所式を開催、正式にスタートしました。

第1部の式典にはシニア関連やボランティアなど各種団体の代表や市民など約70人が参加。北橋健治市長が主催者を代表して「北九州市が推進している“生涯活躍のまち”の成功モデルをここから切り開きたい」と挨拶、各団体や市民の協力を呼びかけました。続いて地元魚町商店街振興組合の梯輝元理事長、北九州市社会福祉ボランティア大学の山崎克明校長、北九州市



主催者挨拶する北橋市長(右)シルバー人材センターの櫛井正喜理事長が来賓挨拶でセンターへの期待を語りました。

最後に北九州市立大学地域創生学群2年生でゴミ拾いボランティア団体「グリーンバード北九州」代表、興梠守さんが若者世代を代表してエールの挨拶をすると盛ん

な拍手が送られました。

第2部はエフエムKITAQのアイドルグループ「大人哀◆Dream」が出演。明るく魅力的な4人の楽しいクイズやおしゃべりでセンターの役割を分かりやすく紹介してもらいました。



開所式を盛り上げた“アイドル”4人組

「いきステ」は、だれもが「生涯活躍できる街」の実現をめざして皆さんの「●いきがい」を見つけ、地域での「▶やくわり」を担い、世代を越えた新しい仲間との「■つながり」をつくるお手伝いをする場所です。

そのためのいろいろな情報を提供しご相談に応じます。またボランティアなど各種活動や視察のアドバイスや学習会、講座などの交流の場も企画します。

**「いきステ」を
ご利用ください**

いきがい活動ステーション
小倉北区魚町3丁目3-20
(中屋ビル地下1階)
TEL:093-967-3420
FAX:093-967-3421
ウェブサイト (<http://iki-st.com/>) や facebook にも新しい情報を掲載しています。
(裏面でいきいき活動グループを紹介します)

住むなら北九州!

“お試し居住”をコーディネーターがお手伝い

「いきがい活動ステーション」は北九州市の「住むなら北九州移住推進事業」の一端も担っています。「田舎暮らしの本」で「50歳から住みたい地方ランキング」で1位に選ばれた北九州市。その北九州へのUターン、Iターンをアドバイス、支援する移住コーディネーターが待機しているのです。

住んでいる人が「生涯いきいきと活躍できる街」北九州の魅力を

肌で感じてもらうために実施している「お試し居住」のお手伝いはコーディネーターの重要な仕事の一つです。

全国各地から「お試し居住」の体験希望者が見えていますが、新潟県に住む女性Aさん(57)は8月25日から1週間かけて、お試し居住を利用しました。「北九州市は住みよい街」といろんな人から聞いて移住を検討するために滞りました。

市内各地を見て回り、いろんな人から話を聞いたAさんは「住んでいる人は優しいし景色も気候もいいので気に入りました」と話していました。移住が実現するといいですね。

北九州市への「お試し居住」やU・Iターンについて知りたい方は☎093・967・3421にお気軽にご連絡ください。



お試し居住に使われる住宅



こんな素敵な仲間たち

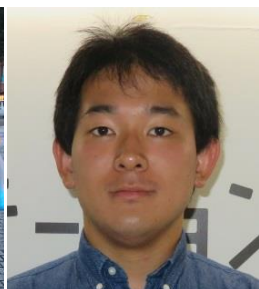


北九州市内には元気に活躍しているボランティアや趣味などのさまざまな団体があります。今回はその中から2つの素敵なグループを紹介します。問い合わせは「いきがい活動ステーション」へ。

ゴミ拾いボランティア グリーンバード北九州

「きれいな街は人の心もきれいにする」をコンセプトに東京・原宿の有志がゴミ拾いボランティア団体「グリーンバード」を設立しました。2003年5月のことです。以後、全国各地に次々と広がり、10年後の2013年には北九州市立大学の地域創生学群の学生を中心に「小倉チーム」が誕生。続いて「北方」「黒崎」チームが結成され、三つを合わせて「グリーンバード北九州」と言います。モットーは、単なるゴミ拾いではなく「コミュニケーションを大切に、楽しくゴミ拾いをする」ことだそうです。

小倉では毎月第1土曜の午後1時半と毎週火曜の



午後6時半に小倉北区魚町の拠点に集まり、おそろいの緑色のユニホーム姿でゴミを拾って歩きます。現在ではアジアを中心に世界に80を超える地域団体があるようですが、2015年度は北九州チームの「参加者数」「活動回数」「多団体とのコラボ回数」がいずれも1位または2位となり、総合点で「世界一のグリーンバード」チームに認定されました。

結成から4年目に入り街の人たちに見られる機会も増え、知名度も上がってきたそうです。4代目リーダーを務める地域創生学群2年生の興梠守さんは「最近では小中学生や社会人、高齢の方も手伝ってもらえるようになりました。年配の人たちは若者の活力をもらい、若者は年配者からいろいろなことを教えてもらっている気がします」と話しています。

興梠さんたちは「ぜひ私たちの活動に参加しませんか」と呼びかけています。

手作りの素晴らしさを後世に ガリ版研究会

昭和40年代ごろまではほとんどの企業や役所、学校などで活躍していた「ガリ版」（謄写版）。コピー機やワープロ、パソコンなどの登場ですっかり姿を消してしまいましたが、手作りの温かみのあるガリ版を魅力を守り伝えようと北九州市で頑張っているグループが「ガリ版研究会」です。

会長の小松良子さんは若い頃、職場の文書をガリ版で書いていましたが、なんとか上手になりたいとガリ版教室に通い、腕を磨きました。そのときの先生が「2008年北九州技の達人」に認定された岡部侑慶さん（1927～2010）です。小松さんは2004年、



楽しそうなガリ版研究会のみなさん

自らのスキルアップのために通った北九州市立大学の夜間大学で、若い人たちがガリ版のことを全く



実演する小松会長（左）

順風満帆



故・岡部さんの作品（カラー）

知らないことにショックを受け、なんとか後世に残したいと、仲間と一緒に「ガリ版研究会」を立ち上げました。そして大学はもちろん、市内各地で実演会や展示会などを開催、ガリ版の普及・PRに努めています。

初めて鉄筆を握った人を含めて今では会員9人。月一回、生涯学習総合センター（小倉北区大手門一丁目）でガリ版技術上達のための練習や伝承活動に頑張っています。ガリ版の技術はとて奥深く、文字だけでなく図形も絵も描くほか、十色刷りなどという多色刷りも可能で、中にはとても鉄筆で描いたとは思えない絵画のような作品もあります。

小松さんは「今では一つの芸術として注目されています。若い人に参加してほしい」と話しています。